

# 高鷲小学校で授業参観しました

1月17日(火)、伊藤、本多先生、谷脇先生で高鷲小学校に伺い、授業参観してきました。高鷲小学校では「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業中いつでも仲間と協同し課題解決できるように工夫されています。小学校での取り組み・実態を知ることが、今後高校での授業の方針の礎になっていきます。生徒の学びを深めるためにも、来年度に小・中学校での授業参観の案内があった場合は、ぜひ参加してください。

## <クラス、授業時の座席の工夫>



この字でペアワーク・  
全体交流をスムーズに



ペアでの学び(プリントを共有  
することで話しやすい)

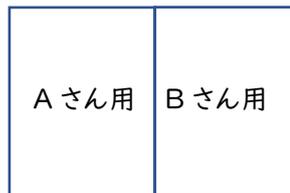


グループでの学び合い

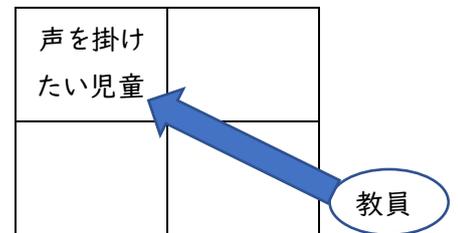
## <教員のサポート、教具の工夫>



児童の目線に合わせる



左右は、同じ問題  
個人での思考 ⇄ ペア交流  
苦手な児童も確認しやすい



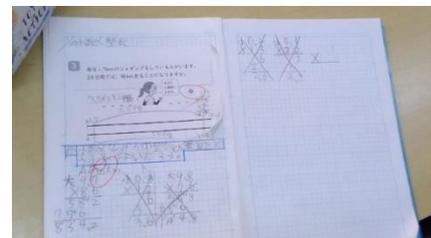
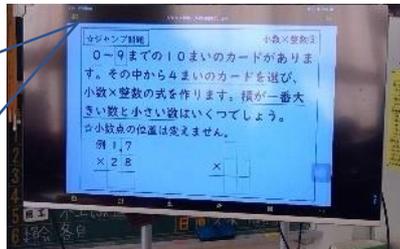
・グループの対角から声をかける  
➡その他の児童も巻き込み  
グループ単位での学びに繋げる  
・教師の問いは5W1H、最小限の情報のみ伝えることで、自ら導かせる

・授業が始まり、最初の5~10分で教師の説明は終わり、後は児童主体の授業を展開していました。個別学習とペア・グループ学習が常に相互に切り替わり、自分たちで学び合う様子がみられました。  
・グループのメンバーは、くじで決めていました(一か月ごと)。苦手な子同士のグループができたとしても支え合い、共に切磋琢磨することができます。  
・児童の考えをいくつも共有する中、苦手な子にも中間発表の場で評価することで自己肯定感が高まり、今後の活動も意欲的に行える。

## <授業内容の工夫>

ジャンプ(発展問題)を行うことで苦手な子でも活躍できる場に!

類題5題解かせるより、  
ジャンプ1問の方が有効  
➡発展問題をやることで本時の授業で扱った基礎の振り返りができる。  
<問題の設定のポイント>  
1. クラスの2/3が解けない  
2. 解けそうで解けない  
3. 日常生活や答えが必ずあるわけではない 問題を設定する



## <学習後のノート>

課題解決に向け、学んだことの演習を自ら行えている。  
➡課題解決能力と基礎力の両方の成長が望める。

グループ活動を行うと、得意な子が苦手な子に教えるというスタイルになってしまう懸念がありました。しかし、今回の様子を見て、グループ内での課題を共有やジャンプ(発展問題)を教師が上手に設定することで、得意な子でも解けない、苦手な子が機転を利かす機会が生まれることがわかりました。“教え合い”ではなく“学び合い”を大切にすることで、児童・生徒にこの先の答えのない課題に立ち向かう力を身に付けさせることができる、グループ活動にはそのような可能性があるのではないかと感じました。小学校の先生との話の中でも、生徒に自助・共助の力を授業で身に付けさせ、授業外(日常生活)でも発揮できるようにすることが課題であるとおっしゃっていました。本校の生徒は、高校が最終学校になる子も多いです。多角的な考えから新しい解を導き出す学びから、日常生活に繋がられるように支援していく必要があるかもしれません。